

日本 防火・防災 協会長賞

子どもからシルバー世代まで、
みんなで取り組む防災対策

津田沼ハイレイズ自主防災会

【団体概要】

昭和62年3月の入居開始時から管理組合理事が中心となり自衛消防隊を編成。平成17年6月に「習志野市自主防災組織助成要領」を受け、「津田沼ハイレイズ自主防災会」に改変した。平成24年からの「習志野市総合防災訓練」に合わせて、平成26年から自主防災会に災害対策検討委員会を加えて構成している。

【背景】

当マンションは新耐震設計であり、習志野市直下で大規模地震が発生した時の想定震度「震度6強」においても建物被害は限定的であると推測されることから、全296戸の住民に対して、マンション室内における「在宅避難」を基本とした訓練を行っており、全居住者を対象に3月に消防訓練、9月に防災訓練を自主防災会が中心となり、マンションの特性に合わせた形態で実施している。

【取組の内容】

防災レターを毎月発行、ロンドンタワーマンション火災の原因と当マンションの比較など時宜を得た情報を提供し、居住者の対応能力向上に努めている。

年2回の訓練では、地震発生による自主防災会立ち上げから火災発生時の対応、避難や安否確認など、訓練用に作成したマニュアルの検証を兼ね一連の動きで実施している。隣人との繋がり強化のため、訓練参加者は名札を着用し、声を出して安否確認するほか、普段顔を合わせない居住者とのグループ討議などを行い、相互理解を深めるように努めている。

【成果】

平成29年に「防災レター」のアンケート調査を実施、80名中75名が毎回読んでいと回答が得られ、多くの居住者が防災への関心と、災害の備えについて理解を深めようとしていることが分かった。継続して行ってきた訓練では、参加人数が大幅に増え、居住者の状況を知らせるマグネット「安否確認シート」をドアへ掲出する取り組みも認知され、一体となって防災力が向上されている。



はしご車による高層階からの救出訓練



初期消火訓練



途上避難者の振分訓練



避難食提供前の訓練講評



選定委員Comment

津田沼ハイレイズは1980年代後半に入居が開始された、千葉県習志野役所にある新耐震設計のマンションである。ここでは入居開始直後に発足した自衛消防隊が2005年に自主防災組織になって以降、毎年防災訓練を積み重ねており、2013年からは市の参加型総合防災訓練と合わせて年2回行っている。津田沼ハイレイズ周辺では主に地震災害が想定されることから、特に在宅避難を重視した取り組みを行っており、地震後はなるべく避難所に行かないよう豊富な備蓄を用意するとともに、各戸にも一週間分の備えを呼びかけている。また訓練では、館内滞留者の安否確認シートを用いながら安否確認を行い、救助と炊き出しの訓練を参加者との協力のもと行っている。一連の取り組みで特筆すべきは、訓練後のミーティングや

アンケート、それに基づくマニュアルの見直しを丁寧にいっつ、戦略的に多様な訓練を企画し、また積極的に子供や若い人を取り込む工夫をしている点であり、老人会とも連携して防災を日常化する意欲を持ち続けている。また市や消防による訓練支援も手厚い。

このように津田沼ハイレイズの事例は、日常のソフトなネットワークコミュニティづくりを原点として戦略性が伴う防災の取り組みを丁寧にしている点は高く評価され、全国の参考事例になるものと考えられる。



- ▶ 設立年
平成17年4月
- ▶ 団体構成
24名
- ▶ 所在地
千葉県習志野市津田沼
- ▶ 取組開始年月
昭和62年 3月～